

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200992		
法人名	株式会社 レナール		
事業所名	グループホームオアシスことしば(弥生)		
所在地	山口県宇部市寿町3丁目2番5号		
自己評価作成日	平成26年4月20日	評価結果市町受理日	平成26年11月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年5月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、複合施設の2階部分に位置している。宇部市のほぼ中心にあり窓からは公園の木々が見え四季折々の景色を眺めながら過ごす事が出来る。散歩の途中に近隣の方と会話をしたり、川の鯉に餌をやったり車で5～10分の場所にあるショッピングセンターに買い物に出かけたりと地域の中での生活を感じることができる。またの納涼祭や餅つきなど気軽に来ていただける機会を設け地域との交流がもてるようにしている。常盤公園を始めしない各所や竜王山などにドライブや催しものなどに出かけている。施設内では誕生日会やその他の行事を通して他部署の利用者やスタッフとも交流がもて、施設全体で利用者を支える体制が出来ている。医療連携体制も整っており、訪問看護師や主治医による定期的な訪問がある。緊急時や急病の際には、24時間連絡できる体制が整っている。食事に関しては、利用者一人ひとりの希望や状態に合わせて提供している。また、週2回の昼食を、利用者と献立を考え調理を行い。また食事の準備や後片づけは利用者が積極的に参加し役割を持っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の立地条件や地域の特性を活かされ、利用者と地域住民、地元の関係者との関わりが拡がり、地域とのつながりを深めておられます。事業所自体が地域の一員として理解を得ておられることで、日々の散歩でも近隣の人と家々の庭先で挨拶を交わし、買物に行く商店の店員とも顔馴染みになっておられます。地域のボランティアとの交流を増やされたり、小学校の登下校時の見守り隊としての活動を始められています。職員は利用者と共に暮らす中で、理念にある「その人らしく楽しくゆったりと安心して」を大切にされ、個別の情報や経過記録を基に利用者一人ひとりの思いや願い、暮らし方の意向を把握され、決して無理強いしない本人のペースを大切にした寄り添うケアを実践しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200992		
法人名	株式会社 レナール		
事業所名	グループホーム オアシスことしば(如月)		
所在地	山口県 宇部市 寿町 三丁目 2-5		
自己評価作成日	平成26年4月18日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年5月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体病院や系列病院が近くにあり、訪問看護ステーションもすぐに対応できる距離に位置しているため急変時など、即座の対応をお願いできる体制にある。また同建物内の有料老人ホームから隣の病院へは廊下でつながっており、緊急時や悪天候のときなどは、その通路から安全にお連れできる造りとなっている。入居申し込み時や入居後も利用者様のご家族からも安心できる体制であると満足していただけている。また、宇部市の中心部にあるため、買い物やイベント、公園など、外出機会も多く、いろんな場所へお連れできる環境になっている。季節を感じていただけるような行事や環境づくりにも留意させていただき、「そのひとらしく、楽しく、ゆったりと安心して」という理念を頭におき、利用者の方々が自然と笑顔になられるような支援を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1 弥生	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人とグループホームの理念を共有し利用者様一人ひとりが「その人らしく楽しくゆったりと安心して」過ごせるように折々に話し合い実践に繋げている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示している他、毎日目にする業務日誌にも記載して共有を図っている。月1回のケアカンファレンス時に理念について話し合い、実践につなげている。	
1 如月	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「そのひとらしく、楽しく、ゆったりと安心して」という理念のもと、職員同士で連携を図りながら、一人ひとりの時間の過ごし方を大切にしていける支援を心がけている。		
2 弥生	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には、地域の代表が参加してくださっている。また、自治会と協力して草抜きを行ったり納涼祭や餅つきなどの行事には、地域方々にも参加していただいている。月に1回定期的ボランティアの訪問もあり交流を行っている。	自治会に加入し、地域の草取り作業に参加している。複合施設内で行なわれる納涼祭や餅つきには近隣の人を招待し、デイサービス利用者と一緒にカラオケに参加したり、保育園児の来訪時(剣玉、遊戯、折り紙)に触れ合っている。地域の人と散歩時や買物時に挨拶を交わしている他、野菜の差し入れがあるなど日常的に交流している。定期的に来訪するボランティア(朗読、紙芝居、歌など)や誕生会に来訪するボランティア(日本舞踊、フラダンス、マジック、マンドリンなど)、看護大学実習生などと交流している。地元の小学校と協力して、子ども達の登下校時の見守り隊の活動を始めている。	
2 如月	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の清掃活動やまた事業所での行事の取り組みなど、お互いに情報を交換しながら連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3	弥生	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や申し込みにこられた方の相談を受けたりし家族で抱え込むことのないように助言したり相談窓口やサービスの紹介などを行っている。		
3	如月	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や電話での問い合わせなどで相談に応じ、近隣のサービスや家族の負担が軽減する方法などをお知らせするようにしている。また、管理者は事業所以外の認知症の研修などでお話をさせてもらう機会もある。		
4	弥生	(3) ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は、常勤職員を中心に職員全員で取り組んでいる。出来上がった評価表は職員全員で共有し、次へのステップにしている。	管理者は評価の意義について説明し、全職員が常勤職員と非常勤職員とでペアを組み、項目毎に意見を交わし、記入後にまとめている。評価を通して、職員一人ひとりが日々のケアの振り返りや見直しを行い、サービスの質の向上につなげている。前回の外部評価結果を受けて応急手当や初期対応の訓練を実施している他、災害時の地域との協力体制について話し合っている。	
4	如月	(3) ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価に対する意識は経験の長い職員から新しい職員への伝達もされており、自分たちのケアの見直しをするためにも一緒に考え、取り組んでいる。		
5	弥生	(4) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、各回毎に利用者の状況や実施したサービスについて参加者に報告しそこで挙がった家族からの要望にもできるだけこたえるようにしている。また、毎回多方面から講師を迎えミニ勉強会をしている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況報告と近況報告、行事報告、外部評価への取り組み状況等について報告し、毎回、テーマを変えて勉強会を行っている。テーマによって参加メンバーに訪問看護師、PT、訪問歯科医師等を加えることや家族会と同日開催にするなどの工夫をしている。職員の名前と顔写真の掲示や地域の草取りの時期や方法、小学生の見守りなどの意見をサービス向上に活かしている。	
5	如月	(4) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではテーマを持って毎回開催してきている。その際、外部評価で見えてきた課題を話し合い、今後の取り組みへ活かせるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	〇市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回参加していただき ホームの状況を伝えている。介護保険の改 正時などは、家族への詳細な説明をしてい ただくなどの協力を得ている。	市担当課とは運営推進会議時の他、電話や 直接出向いて法の解釈や更新手続きなどの 相談をして助言を得るなど協力関係を築くよ うに取り組んでいる。地域包括支援センターと は、運営推進会議時の他、法人研修会で講 師に招いた時や電話等で入居情報の報告や 相談をするなど、連携を図っている。	
6	(5)	〇市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者総合支援課が近い距離にあるた め、会議録を持っていった際などにも担当 者の方々とお話をさせていただき、いろん な情報もいただいている。		
7	(6)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回は全館合同で研修を行い、また月 1回のカンファレンスなどを利用し周知徹底 している。利用者の不穏当で已むを得ず施 錠を行った場合は、状態が落ち着き次第 速やかに開錠し、その経緯を管理者に報 告するとともに、経過記録に残すようにして いる。	外部研修(グループホーム協会、介護福祉士 会等)や法人研修で学び、職員は玄関の施 錠も含めて、身体拘束の内容や弊害につい て正しく理解している。外出したい利用者とは 一緒に出かけるなど、抑制や拘束をしないケ アに取り組んでいる。スピーチロックについて は職員同士で注意し合っている。	
7	(6)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その方の気持ちを尊重するケア、安全に過 ごしていただくケアを中心に考え、身体拘 束をなるべくしない方向で取り組んでいる。 転倒の危険性の見られる方には福祉用具 を使用しての安全対策に取り組んでいる。		
8		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	管理者は、広い施設内で少人数のスタッフ が対応するため閉鎖的になりやすい環境 にあるため特に球威を払っている。特に言 葉の暴力は本人も気が付かないこともある ので職員同士でお互いに気を付けている。		
8		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	26年、1月に市の職員の方に施設全体研 修でお話をさせていただき、虐待に対する意 識を今一度再確認させていただいた。ス ピーチブロックなど、気づかずに行ってい たところも反省する職員もあり、今後のケ アの質の向上にもつながった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	弥生	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修で専門家による研修を実施し学ぶ機会を持っている。現在、利用しておられる利用者はおられないが必要があれば活用できるように支援したい。		
9	如月	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	キーパーソンの方が遠方であったり、家族の支援の難しい方など、制度が今後必要になってこられそうな方もおられ、家族には情報としてお伝えはしている。職員ともカンファレンスの際に検討している。		
10	弥生	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には特に時間をかけて説明を行い、その都度質問があれば対応している。改定などの際には、文書または口頭で説明を行っている。		
10	如月	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際に、契約書、重要事項説明書などに沿って、時間をかけて説明をさせていただいている。途中何度か質問を受けながら、理解をされているか確認をとっている。改正の際は家族会などで説明をさせていただき、理解した上で承認していただいている。		
11	弥生	(7) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け受け付け体制を整えてる。苦情相談の内容は、書面に残し会議などで改善策を講じ、結果を返答する。職員に周知徹底するとともに運営推進会議でも報告する。	苦情相談の受付体制を明示し、苦情処理手続きや第三者委員を定めて契約時に家族に説明をしている。家族からの意見や要望は運営推進会議参加時や年1回の家族会、面会時、ケアプラン作成時等で聞いている他、電話やメールでも聞いている。職員の顔が分からないという意見があり事業所入り口に顔写真入りの職員の名前を掲示している。	
11	如月	(7) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書や入り口に苦情受付窓口や相談場所などを明記している。また、運営推進会議にご家族に出席していただいた際に意見や要望を聞き、運営の改善に役立てさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務等を通して聞かれた提案や意見職員全体で考え、必要であれば幹部会で検討してもらうなど職員の意見を反映するようにしている。	月1回のカンファレンス時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で聞いている。職員から出た意見は集約して月1回ある法人の幹部会議に提案して反映させている。複合施設での共通電話による煩雑さを改善し、電話交換専用宿直が置かれた他、行事での職員の負担軽減などの意見を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は管理者へ日常的に気づきやアイデアを伝えることができ、カンファレンスなどで意見の交換の後に日々のケアに反映されている。また、管理者は幹部会において現場の思いを伝えることができている。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握しており研修参加状況、資格取得意欲なども勘案し向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。また、職員の精神的・身体的負担を軽減できるよう努めている。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を把握しており、研修参加状況、資格の取得への意欲なども勘案し、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、施設外から講師を招き専門的な研修を受ける機会を設けている。また、施設内では管理者を中心に身体介護や認知症に関する対応など働きながらその都度トレーニングができるように努めている。	外部研修は職員に情報を伝え、職員の経験や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は復命書を提出し、カンファレンスで復命報告をして共有している。法人研修は2ヶ月に1回、外部講師による、緊急時の対応や接遇、ノロウイルス、脱水症予防を受講している。内部研修は年間計画に基づいて、月1回、緊急時の初期対応や心臓発作、発熱、出血、熱中症、認知症等について実施している。参加出来なかった人には資料を配付して共有している。日常業務の中で介護技術が学べるように支援する他、同業者との交流を通して勉強会や研究、情報交換をして質の向上に取り組んでいる。	
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修への参加の機会があり、学ぶ事により意識の向上もみられる。職員も資格の取得へ積極的な取り組みを実施し、結果も出している。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム連絡協議会や職能団体の勉強会の情報を提供し参加を推進している。また、他施設の管理者と共同研究を行ったりして交流を図っている。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回、他のグループホームの職員の方々とも一緒に研修を受ける機会をつくっている。また、職能団体への研修の情報なども伝えて職員皆がいろいろな研修や活動に参加できるような体制づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16	弥生	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や関われる時間を大切にして積極的にかつ具体的に要望を聞くようにしている。コミュニケーションの取りにくい方にはご家族も一緒に会話に参加していただき思いが出しやすいように配慮している。		
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心できる場所づくりに努め、困っておられること、不安な気持ちを伝えていただけるような関係づくりに努めている。		
17	弥生	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時などゆっくりと話を聞く時間を持ち不安等が解消できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にも連絡を密にとり、ご家族の思いや本人様のご様子などをお聴きし、不安を少しでも解消してもらえように努めている。また、サービスの内容についてもどんな小さな事でも疑問に思われたことにはお答えできるような対応をさせていただいている。		
18	弥生	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族から得た情報を基にアセスメントを行い必要とされている支援を見極めるようにしている。また、受診、理美容等他のサービスの希望や必要があれば対応するようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族が安心して生活に慣れていかれるような生活リズムがつかれるよう、ご家族へも連絡を密にとり、日々のご様子をお伝えし、何を求めておられのか、お聞きしながら支援を考えていっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	弥生	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する中で、暮らしの中の知恵をお借りしたり、お手伝いをお願いしている。また、職員が悩みを見いていただいたり励まして頂くこともある。		
19	如月	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が得意な分野で力を発揮できる場面づくりや自分の役割を持っていただくことで、ホームでの生活を支える一員であることが実感できるように努めている。		
20	弥生	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅へ戻られたり、墓参、外出など多様な面で支援をしていただいている。必要な物品などは持参していただいたりしている。		
20	如月	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の気持ちを一番に考え、ご家族にも協力していただけるよう、キーパーソンの方だけでなく、他のご家族との関係づくりにも努め、家族全員で支えていただけるようにしている。		
21	(10) 弥生	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やお知り合いの訪問がある。訪問があったときには居室などでゆっくりできるようにし、お茶などをお出して場が和むように配慮している。また、ご本人の状態によっては、仲介をしたりして親交が継続できるように支援している。	趣味仲間や近所の人、信仰の仲間、昔の職場の同僚の訪問がある他、電話の取次ぎや年賀状の支援をしている。ドライブで自宅に行ったり、思い出の地へ出かけている。家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や買物、外食、墓参り、葬儀や結婚式への出席、自宅へ仏様を拝みに出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21	(10) 如月	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方の訪問などの時には遠慮されず、継続していただけるように職員との関係づくりに努めている。また、外出の際にもそれぞれの利用者の方々の思い出の地などに行くようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	弥生	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食卓の席順や外出時のグループ作りに生かし気の合う方同士の絆が深められるように支援している。また、認知症が重度になってこれでも利用者同士が支え合えるように仲介している。		
22	如月	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然に交流されるような関係づくりをさせていただいている。共有部分での過ごされ方はご自分のお席だけでなく、いろんな方とも会話されるような環境づくりに努めている。		
23	弥生	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られてもその後の経過をお聞きしたり、安心して過ごせるように情報の提供をしたりしている。		
23	如月	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の方や移られた施設の職員さんたちにも連絡をとり、ご本人さんの状況をお聞きしたり、相談を受けている。また、亡くなられた方の命日には連絡をさせていただき、故人を偲ぶようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11) 弥生	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの利用者様やご家族とのコミュニケーションを積極的に取り、思いを聞けるような関係作りに努めている。困難な場合でもアイコンタクトなどのノンバーバルコミュニケーションをとりながら関係作りに努め、なるべくご本人の希望に沿うようにしている。	入居時のアセスメントで本人や家族から基本情報や生活歴を詳細に把握している。日常生活ではセンター方式のシートを活用して利用者の日々の生活や行動、若いころのエピソードを聞き出し記録して思いや意向の把握に努めている。利用者に寄り添い、非言語的コミュニケーションを大切にして思いの把握に努めている。表現の少ない利用者には職員間で話し合い、本人本意に検討している。	
24	(11) 如月	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方々の状況を観察しながら、ご家族からの情報などいただき、ご本人の思いや希望に添っていけるような支援に努めている。また、希望を表現することの難しくなってきた方には非言語的コミュニケーションなどでも表現していただけるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	弥生	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人ご家族には入居前に面接を行い、また入居時には詳しくお話を聞くようにし状況の把握をするように努めている。また、ケアマネージャからも情報を収集している。		
25	如月	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話を大切に、一人ひとりの生活のリズムの中で幼少期、また子育ての時期などのお話を伺い、そのエピソードを場面場面でお話していくことで懐かしい気持ちを持っていただいている。		
26	弥生	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況経過記録や業務日誌などに残し就業前にはそれらに目を通し現状の把握に努めている。また、月1回カンファレンスを開き一人ひとりの状況を全員で再確認している。		
26	如月	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが利用者の方々の体調、心身の変化に気づける力を身につけ、また情報を共有することで「そのひとらしく、楽しくゆったりと安心して」穏やかに生活が送れるように現状の把握に努めている。		
27	弥生	(12) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用し、ご本人からは生活の中で、またご家族からは面会時などを通して希望や要望を聞き介護計画に反映している。	介護計画はICFの様式を活用し、本人や家族の要望、かかりつけ医、訪問看護師等の意見を参考にして、月1回カンファレンスを行い、利用者一人ひとりの個別性が活かされた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。他、本人の状態や状況に変化が生じた場合はその都度、見直しを行い、現状に合った計画を作成している。	
27	如月	(12) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや日々、職員間での意見を検討し、現状にあったケアが提供できるように努めている。また、キーパソンの方だけではなく、利用者様を支えておられる家族の方から情報をいただき、利用者の方の生活の広がりへとつなげている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	弥生	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、業務日誌や一人ひとりの経過記録に残している。また、経過記録はケアプランの短期目標が記してありケアプランに沿ったケアが出来ているかも確認できるようにしている。		
28	如月	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを個別に記入を行い、常に職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しをしている。		
29	弥生	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス(訪問美容など)に満足されない時は、他のサービスが利用できるようにしている。		
29	如月	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画に縛られることなく利用者の方々、家族の方々の要望に対応できるよう他のサービスの利用の情報なども得るように日頃から心がけている。		
30	弥生	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容や訪問診療を活用し、認知症が進行しても安心して利用できるようにしている。また、買物や地域の催し物などにもできるだけ出かけられるように支援している。		
30	如月	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで生活してこられた環境を大切に、出かけることのできない際は会話の中でその生活に戻った気持ちを感じていただけるよう支援している。また、ボランティアの方に来ていただいたり、小学校との交流も図りふれあいに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続できるようにしている。必要であれば主治医から他の病院を紹介してもらえる。月2回主治医による往診がある。	本人や家族の希望するかかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は月1回の往診がある。月2回、訪問看護師の訪問があり、他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は家族と情報の共有を図っている他、協力医療機関が緊急時を含め24時間対応しているなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係を継続しながら、皮膚科、眼科、耳鼻科、整形外科、精神科等の受診も状態に応じて適切な医療が受けられるよう主治医と相談しながら支援していつている。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回定期的に医療連携体制をとっている訪問看護師の訪問があり相談等を行っている。また、同施設内の看護師にご利用者の状態等の相談ができる。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の月2回の定期訪問に加え、24時間いつでも訪問看護の管理者による相談は受けてもらっている。また、同施設内にある有料老人ホームの看護師にも相談できる関係づくりができており、利用者の方々の健康管理の手助けをしてもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に、病院とホームそれぞれ情報交換を行っている。特にホームからは、本人が安心して治療を受けられるように詳しく情報を提供している。法人の系列の病院がかかりつけ医をなので関係関係作りも出来ている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同系列の病院の医師や看護師との連携は良好で休日夜間でも対応していただいている。他の病院の職員の方とも情報交換や電話での相談などをさせていただいており、利用者様に必要な医療機関との良好な関係づくりは確立できている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りに関する指針を作成し、事業者で出来る事を説明し、方針を共有している。また、他施設に移られる場合は情報を提供し、希望があれば一緒に見学をし安心して円滑に移れるように支援している。	重度化や看取りに関する指針があり、契約時に家族に説明をしている。重度化した場合は、早い段階から家族、主治医、関係者と話し合い、入所施設や医療施設等への移設も含めて方針を共有して、支援している。	
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアプランのご説明時や遠方の家族には帰省された時に当施設でのできる範囲の介護の説明をさせていただき、必要と思われる方にはその方の状態にあった事業所の見学や申し込みなどをさせていただいている。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時には事故報告書を作成し職員全員で再発の防止策を考えている。また、施設全体で年1回は緊急時の対応の研修を持ち、弥生単独でもカンファレンス等を利用して応急処置についてのシュミレーションなどを行っている。	ヒヤリハット・事故報告書に記録し、回覧して、朝礼時に確認し、申し送り簿に記録して周知している。月1回のカンファレンス時にも再度話し合い、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。毎月、内部研修で転倒や骨折、誤嚥、脱水症、熱中症等、緊急対応の訓練を場面を再現して行い、実践力が身に付くように努めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書の事案に対してカンファレンスで検討している。また緊急時対応の訓練を施設内研修などで習得している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜を想定して全館で避難訓練を行い利用者が安全に避難できるように訓練している。また運営推進会議などでも取り上げ自治会長から地域の情報を提供していただき地域の一員としての認識をしている。	消防署の協力を得て、年2回、法人施設全館で昼夜の火災を想定した避難訓練、避難経路の確認、通報訓練を利用者と一緒に実施している他、業者の協力を得て年2回、消火器の取り扱いや煙の中での避難誘導、機器の取り扱いなどを実施している。水や乾パンなどの備蓄をしている。運営推進会議で災害時の協力体制について話し合っているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を全館で実施している。施設内研修でも避難訓練の反省などを踏まえて実践力をつけられるような体制づくりをしている。また運営推進会議でも自治会長さんからの意見を伺い、地域の一員としての防災の認識をしていく努力をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や性格を尊重し、排泄の場面など生活の場面で尊厳を損なわないように注意を払い対応している。	職員は、法人研修を通して人格の尊重とプライバシーの確保について理解している。話す時の語尾の強さに留意し、利用者に敬意を払って接するなど、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報取り扱いに注意し、守秘義務は理解して遵守している。	
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活暦、生育暦を個人情報にて把握し、個人の尊厳を尊重するとともに、敬意を払った声かけや対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	弥生	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人的に関われる時間を大切にしてゆっくりと会話ができるようにしている。認知症が重度になってきても必ず声を掛けできるだけ自己決定ができるようにして本人の希望を聞いている。		
38	如月	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張できる方は思いを傾聴し、受け止めるように心がけている。自己主張ができない方はこちらから答えやすいような質問内容で思いを伺ったり、話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
39	弥生	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、時間にとらわれず利用者様の体調や思い、希望などを聞きながらそれに沿うように支援している。		
39	如月	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望のある方には其れに添った支援をし、要望を出せない方には日常の言動から思いを察するように配慮していつている。		
40	弥生	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの習慣が持続出来るように起床時や入浴後等の整容、外出時の化粧やなどの支援を行っている。また、出張美容などを利用し毛染め・カット・顔そりなどもされている。		
40	如月	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望でカットや毛染めをしていたっている。浴室には一人ひとりの櫛やスキンケア用品も準備させていただき、いつでもきれいになりたいという気持ちを大切にさせていたっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の自発性を大切にし、出来る事、できないことを見極め一緒に食事の準備や片づけを行っている。手伝っていただいたことには必ず感謝の意を伝えている。	法人の配食を利用しているが、週2回の昼食は事業所内で職員持参の季節の野菜やプランタンで取れた野菜を使って利用者と一緒につくっている。利用者は買物、調理、野菜の下ごしらえやリンゴの皮むき、盛り付け、食器洗い、テーブル拭き、お茶汲みなどできている。誕生日のケーキづくりや好きな献立となる誕生日食、季節の行事食、外食など食事を楽しむことのできる支援をしている。	
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会などでは毎日使う食器とは違ったもので提供させていただいたり、特別な日にはランチョンマットなどを敷いてコーヒータイムを楽しんでいただいている。また、家事の得意な方にはその方のペースに合わせて手伝っていただき、毎日の食事も皆で楽しむ雰囲気づくりに努めている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録しスタッフが把握している。飲み物の種類や形態を変えたりして1日の水分量が摂れるように工夫している。食事は、一人ひとりの状態を把握しスムーズに食べることができるよう支援している。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をそれぞれの方で記録し把握させてもらっている。摂取量が足りない場合は声かけし、体調をみながら随時摂っていただくようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	弥生	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行っている。認知症が重度になられても誤嚥に注意しながら、なるべく自分で磨けるように支援している。		
43	如月	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、コップ、歯ブラシのセットをし、自主的、スタッフの声かけにより行ってもらっている。また、定期的な歯科の訪問にて各個人の口腔ケアをしていただき状態の把握をし、アドバイスをしている。		
44	(19) 弥生	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの状態を把握し、必要な方には排泄表を使用し排泄のパターンをつかみ尿取りパットなどの使用を減らすようにしている。	排泄表を参考にして一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44	(19) 如月	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	加齢など個々の状況により、リハビリパンツを使用されている利用者様が大半となってきたが、失敗への不安から希望される方や失敗する事で自信をなくされる事のないように配慮して使用してもらっている。必要な方には排泄チェック表、リハビリパンツ交換表を作成し、声かけ、誘導を行っている。また本人の自立心、自尊心を損なわないように配慮して、入浴時やはき替えで清潔の保持を支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	弥生	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を確保し体操や散歩など運動ができるように支援している。また、一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレに座って頂いたりしている。必要に応じて主治医に相談をしている。		
45	如月	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに適した水分の摂取を支援し、野菜を多く取り入れたバランスの良い食事を提供している。また、朝の体操には、毎日ほとんどの利用者様が行い予防に努めている。便秘の際には主治医に報告し薬の調整をしている。		
46	(20) 弥生	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	湯加減や入浴の仕方など本人の好みや習慣を聞きながらゆっくり入浴できるように支援している。	入浴は、毎日10時30分から11時30分までの間と13時30分から16時30分までの間に、希望や利用者の体調に合わせてゆっくりと入浴できるように支援している。利用者の状態に合わせて清拭、部分浴、足浴の対応をしている。入浴したくない人には無理強いしないで、言葉かけの工夫や職員を交代した入り、入浴時間を変更して支援している。美容院での洗髪等の対応もしている。	
46	(20) 如月	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調を考慮しながら入浴の声かけを行い、本人の気持ちに添って実施している。また、残存能力を活かしながら負担にならないように支援している。楽しい時間となるように一人ずつ入浴していただき、スタッフと会話したり、本人のペースでゆったりと過ごせるように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	弥生	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの入居前の習慣や昼夜の状況や睡眠の状態を把握し休息を勧めている。夜間眠れない時はお茶や菓子などを勧め一緒に過ごしたりして安心して休めるように支援している。		
47	如月	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	薬の作用や加齢や持病、生活習慣により日中の休息の必要な利用者様を把握して、その日ごとに無理のない一日の流れを支援している。また、居室の温度や採光、照明も一人ひとりの落ち着いた環境になるように希望に沿った支援をしている。		
48	弥生	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりの内服状況や効用・副作用などを一覧にしすぐに見れるようにしている。配薬ミスの内容に2重チェックを行い与薬の際は、薬袋の名前を呼応し飲み込まれるのを確認する。症状に変化がある時は、所持異に報告している。		
48	如月	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時の注意事項を守って支援している。処方の変更時には業務日誌やケース記録で確認し、症状や状態の変化を記録して主治医に報告している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などを中心に利用者様一人ひとりの意欲や出来る事できないことを見極めながら役割を持って生活できるように支援している。また、ご本人や家族に話を聞きながら楽しめることを支援している。	新聞や雑誌、趣味の本を読む、皇室写真集を見る、テレビ視聴、ラジオを聴く、ラジオ体操、ぬり絵、貼り絵、編物、縫い物編物、縫い物、壁画作り、習字、トランプ、カルタ、双六、風船バレー、歌を歌う、食事の準備、食事作り、後片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ゴミ捨て、プランタンでの野菜作り、野菜の収穫、観葉植物作り、ゴミ捨て、グッピーの餌やりなど楽しみごとや活躍できる場面を多く作り支援している。	
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の片づけ、編み物や縫い物、習字など、一人ひとりの得意な取り組みを支援している。利用者様のお誕生日には好きな活動や催しを企画してお祝いし、喜んでいただけるようにしている。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿いながら散歩やドライブに出かけている。また、利用者様と相談しながら四季折々の風景を見学に出かけている。地域の方の協力を得て個人所有の土地の花を見学させていただくこともある。	近隣の散歩やスーパーでの買物の他、季節の花見(梅、桜、菖蒲、バラ、紫陽花、牡丹、コスモス)、初詣、ドライブ(馴染みの場所、自宅周辺、きらら浜、空港、北向き地蔵、常盤公園、江汐公園、竜王山等)など、戸外に出かけられるように支援している。家族の協力を得て自宅や買物、外食、墓参りに出掛けるなど、利用者の希望に添った支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの外出の希望に沿った支援に努めている。また、本人の馴染みの場所や自宅周辺に出かけたり、季節ごとの花を見にドライブや近隣の散歩で季節を感じていただくようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	弥生	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、4人の方が現金を所持しておられる。買い物の希望がある時には一緒に行っている。また、所持しておられない方もあらかじめご家族より了解をいただき希望があれば一緒に買い物に行っている。		
51	如月	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を持つ事で安心して生活される方もおられる。建物の1階の売店などで嗜好品の購入も支援している。		
52	弥生	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればスタッフルームや公衆電話から電話をしていただいている。困難な方には、職員が代行してして支援している。		
52	如月	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室内に個人専用の電話の設置が自由で、希望に応じてスタッフルームでも電話をかけられる支援を行っている。かかってきた電話もゆっくりと会話していただけるような配慮もとっている。手紙の返事など書かれる際も必要な物を貸し出し、投函の支援もしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23) 弥生	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、温度計や湿度計を見ながら調整したり食事中は流しを使わない等の配慮をしている。ホールや玄関には季節感のある作品や生花を飾るなどしている。	大きなガラス窓から公園の木々の緑が見える共用空間は広く明るく、机や椅子、ソファがゆったりと配置しており、落ち着いた空間となっている。室内の温度や湿度、空気清浄にも配慮し、季節を感じさせる生花や利用者の手作り作品、壁面飾りが飾っており、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
53	(23) 如月	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はいつも同じ状態で整理整頓を心がけ、エアコンや加湿器で室温や湿度の調整をしている。日中の強い日差しはカーテンで遮り、天気や活動の状況に応じて照明の調整もしている。花や掲示物を活用して季節を感じていただけるように働きかけている。		
54	弥生	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下、日当たりのいい場所などの共有スペースにソファや椅子が設置しており2～3人の気の合った方同士や一人になれたり思い思いに過ごせることができるように工夫がしてある。		
54	如月	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを廊下と食堂に設け、自由に休憩や談笑ができるスペースを作り、利用していただいている。テーブルにも自由な席を設けて交流を助けている。また、食堂に併設のスタッフルームにあるソファでくつろいでいただく時もある。思い思いの時間に自由に活動できるようにフロアの棚には個人のファイルや、塗り絵、写経、本など用意して活用されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24) 弥生	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や仏壇・テレビなどを持ち込んでいただいている。また、寝具なども使い慣れたものを使用していただいている。	電話、テレビ、ラジオ、鏡、机、椅子、畳カーペット、サイドテーブル、簾の衝立、時計、書籍、新聞、カレンダー、クッション、ぬいぐるみ、趣味の道具、仏壇、花鉢など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、壁面に自作品や家族写真、日めくりを飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	
55	(24) 如月	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが自分らしく過ごしやすいように、必要な物や使い慣れたものを揃えていただいている。お位牌や家族の写真、ご自分の作った作品や思い出の品、趣味の本など、思い思いに飾っておられる。		
56	弥生	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の居室やトイレの場をわかりやすく掲示し工夫している。また、安全に移動できるように手すりが設置してある。		
56	如月	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ネームプレートやトイレは一人ひとりのわかることを活かして表示している。照明やエアコンのスイッチにも印をつけたりして混乱のないように個別に対応している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームオアシスことしば

作成日：平成 26 年 11 月 15 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	災害時における地域との連携体制の構築	災害時に地域との連携が取れるように協力体制を構築する。	当グループホームは、複合施設の一部であるため合同の避難訓練等で連携・協力体制を強化する。また、地域住民に広報で避難訓練への参加を呼びかけたり、日ごろから行事のお知らせを配布し施設自体を知ってもらい親しみを持ってもらうことで協力体制を徐々に構築していく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。